

多湖淳は、Can a Leader Divert People’s Eyes from its Political Scandal?: Cross-national Experiments of Diversionary Action in Israel and Japan (ID: 2044326 DOI:10.1080/03050629.2022.2044326)を国際関係論分野の *International Interactions* 誌より、国際共同研究としてイスラエルのテルアビブ大学の Elad Segev および早稲田大学の Kohei Watanabe との共著として刊行することになった。本研究では、イスラエルと日本をフィールドにし、政治リーダーが危機や紛争エスカレーションを引き起こす誘因としての政治スキャンダルの影響を世論を媒介に間接的に計測しようとした研究である。エスカレーションの誘因としては恐怖認識を増強するメカニズムの重要性だけが確認でき、政治スキャンダルによる危機リスク増大のメカニズムは必ずしも確認できないことが理解できた。これは、リスクマネジメントにおいて国際関係を通じた紛争エスカレーションにおいて、政治リーダーが持つ脆弱性の要素をそこまで大きく加味しなくてもよいことを意味し、要因としてモデルへの組み込みが必須ではない可能性を示唆する。モデルに組み込むべき変数ではないことを確認した点で本プロジェクトへの貢献となった。また、国際関係論分野においては本研究はいわゆる **Diversionary Theory of War** の前提条件を確認する重要な研究として理解され、それゆえに投稿後ただちに掲載が認められるような成果となった。

